

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：32510

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23047

研究課題名（和文）近代の書記言語の形成過程の解明 - ベトナム語の虚詞と文法史的变化を通して -

研究課題名（英文）Research on process of formation of modern writing languages: through Vietnamese grammatical words and grammaticalization

研究代表者

鷲澤 拓也（Wahizawa, Takuya）

神田外語大学・外国語学部・講師

研究者番号：30847083

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本課題につながる以前からの研究内容である、16世紀から19世紀までのベトナム語の文法機能語の用法に関する分析結果を、海外の学会で発表し、国内外の関連分野の研究者と交流を深めることにより、今後の研究の展望を得ることができた。20世紀前半のベトナム文学を収集し、その中から研究対象とするにふさわしい代表的な作品を選んでOCRでデータ化し、自然言語処理により、文法機能を表す語が統語的に、すなわち周辺の語との関係上どのように用いられているかを分析することができた。その結果を査読付き雑誌論文として発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ベトナム語のいくつかの文法機能を表す語は、20世紀前半に文法化された可能性が高く、西洋諸言語との接触の中で、近代的な公的諸分野での使用に堪えうる言語となるためにいくつかの文法表現を明示するようになったと考えられる。このような近代書記言語としての確立という現象は諸言語に見られ、日本語をはじめとする各有力言語の現状が所与のものでなく、一定の過程を経て成立したものであるという、言語変化の本質の一側面に迫るものである。

研究成果の概要（英文）：I made presentations abroad on results of the analyses about usages of grammatical function words in 16th through 19th century Vietnamese, which I have researched in advance. I exchanged ideas there with researchers worldwide of related fields, and got inspirations on my future researches. I collected Vietnamese literatures in the first half of 20th Century, and selected works that are suitable for my research, and made their digital data by OCR scanning. I analyzed them by natural language process to see how grammatical function words are used syntactically, which means in relation with words around them. I published the result on an academic magazine.

研究分野：ベトナム語史

キーワード：近代書記言語 ベトナム語史 ベトナム近代文学 チュノム 文法機能語 文法化 人文情報学

1. 研究開始当初の背景

一般的に、現在国家等で公的に用いられている言語は、近代的な言語として確立させる過程があったと指摘されており、日本語を含む非西洋語の場合、そこで西洋語の翻訳などからの影響を受けることも多い。

ベトナム語の近代書記言語の形成は短期間になされたため、その形成過程を研究してこそ、そこに明確に表れる言語の「近代化」の根本的要因が確実に解明されるが、まだ十分に研究されていない。ベトナム語の歴史の研究の中で、語彙の使用の変遷については研究されてきているが、文法の変化に関しては先行研究が乏しい。ベトナム語には語形変化がなく、文法機能は語順と虚詞（文法機能語）により表される。このうち、虚詞がより把握が容易で、短時間で大きな発見が期待できるため、虚詞の研究により、文法の歴史を明らかにできる。

従来、近代的書記言語の形成という観点からの研究は多くなされてこなかった。その原因の1つが、17世紀～20世紀前半は言語（漢文／フランス語／ベトナム語）や文字種（漢字／ラテン文字）の違いによる文献読解の障壁が大きく、それらの資料を横断的に用いた言語史の研究が困難なためである。チュノム等で書かれたベトナム語の古い文献を読解可能な研究者も多くはない。いくつかの文献を対象にした文法機能語の用法に関する先行研究はあるが、より幅広い時期にわたる多くの文書を扱った体系的な文法史研究による検証が必要となる。特にベトナム語史の研究が緒に就いたところといえる日本では、本研究は書記ベトナム語の成立過程を解明し紹介するほぼ初めての試みとなる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代ベトナム語で用いられている虚詞（文法機能語）の文法化の過程を調べ、ベトナム語の近代的書記言語の形成における文法史的变化を明らかにし、それを通して、あらゆる言語の「近代化」の根本的要因を解明することである。なお文法化とは、日本語の「くらい」や「ほど」のように、実質的な意味が薄まって文法機能を持つようになる現象をいう。

語彙史の側面からベトナム語の虚詞の用法の変遷を追うということを超えて、より根本的にベトナム語の文法構造が変化した過程を明らかにする。また、近代的な書記言語の成立という観点をベトナム語学に新しく適用させ、さらにその結果をすべての言語に援用することを目指す。時代によるベトナムと諸外国の関係の推移など、言語学にとどまらない領域にも跨る考察もする。

3. 研究の方法

現代ベトナム語で基本的な文法機能を表す虚詞のうちで、16世紀には虚詞でなかったものが、17世紀～20世紀前半のベトナム語の資料の中で、どのような意味・用法の変遷過程を経て文法化したのか研究する。

16～20世紀の代表的な散文の文献を対象とし、各資料からの用例の抽出、意味・用法の分析を行い、数量的手法により研究する。散文は修辭的な制約が少ないため虚詞の使用の実態を忠実に表し、また近代書記言語の主要な位置を占めるため、韻文よりも優先して対象とする。分析の際に、電子テキストやPythonのスクリプトなどを開発する。

4. 研究成果

(1) 期間前半の国内外での学会発表

本課題につながる以前からの研究内容の続きとして、16世紀から19世紀までのベトナム語文献の一部に関し、いくつかの文法機能語に限定して使用方法の変遷を俯瞰的に把握し、それにより明らかになったことを2つの国際学会で発表した。1つは8月にタイで開かれた第8回オーストロアジア言語学会（ICAAL8）で、16～19世紀のベトナム語における4つの文法機能語の用法変化の過程を他の言語と比較・対照した。もう1つは、台湾で開かれた第4回国際ベトナム・台湾学会（ICVTS）で、ベトナム語の歴史的な文法機能語の使用の変遷をもとにベトナム語の近代的書記言語の成立過程を示し、それを踏まえて台湾語の近代的書記言語成立に関して考察した。国内外の関連分野の研究者と交流を深めることにより、後の研究の展望を得ることができた。

また、同様な文法化過程の他の言語との比較・対照や、ベトナムの歴史上の社会的な背景と照らし合わせての、文法変化と書記言語成立の、西洋との接触や近代化の中での位置付け等について、「リンディフォーラム：日本におけるベトナム語研究の今／第1回ベトナム語研究会」（オンライン）で発表した。

近代に至るまでのベトナム語の文法機能語の使用状況を知るため、『新編傳奇漫録』における機能語を用いた受身表現について調べ、論文の形で整理し、学内紀要に掲載された。

(2) 資料収集・データ化

国内外の図書館等から、古いベトナム語の文献、20 世紀前半のベトナム文学および関連する文献を収集し、対象とするに相応しいものを数点選んで、業務委託による各資料のスキャンと OCR 処理およびその校正により、データ化した。関連する電子機器も購入した。

感染症の影響で、計画していたように渡航して収集することはできなかったが、郵送等の方法により、一定の分析結果を出せるだけの収集をすることができた。

(3) 自然言語処理による分析

大量の資料を自動で分析し、大局的な歴史的変化の過程を明らかにするため、資料の中での文法機能を表す語の方法を数量的に分析するためのプログラミングの作成を業者に依頼した。それより作成されたプログラムを用いて、20 世紀前半のベトナム文学の資料 6 点について、cua（「もの」の意味の名詞から属格標識へ）と su（「こと」の意味の名詞から、名詞化を表す語へ）と bi（「被る」の意味の動詞から、受身の標識へ）について、統語的なパターン別に用例を抽出し、使用頻度を計上して、文法化の程度を調べた。その結果、su と bi については、20 世紀前半において文法化の過程にあることが明らかとなり、論文として執筆し、掲載された。

今後、より目的に合った抽出ができるように、プログラムの作成を依頼した業者とのやり取りを踏まえ、的確なスクリプトを考えている。

(4) 母語話者へのアンケート調査

過去の文学作品での用例について、現代の母語話者がどのように感じるか調べるため、アンケート調査を取ることを考え、身近な研究者に尋ねて、必要なツールや方法論について概要を掴んだうえで、質問項目等を作った。実施そのものは、本研究の範囲ではできず、次なる研究課題で実施することとなった。

(5) 関連分野への拡大

近代のベトナムの国際関係について関連文献を収集しつつ調べて理解を深め、国際関係と言語との関わりについて、考察を進めた。ほか、一般的・普遍的に、言語使用の歴史と、人間社会のあり方の移り変わりとの関係性について、理論的な枠組みを知るため、歴史語用論や歴史社会言語学に関する入門書を購入し、学んだ。

諸言語における近代化について学ぶ中で、近代化される以前の表現の持つ意義にも新たに気付くこととなり、新たな方向性を見出すようになった。

(6) 社会貢献等

博士課程からの研究の延長ではあるが、2 つの項目「ベトナム漢字音とチュノムの関係」「ベトナム語による漢文の読み方」を執筆していた『漢字文化事典』（日本漢字学会編、丸善出版）が刊行された。前近代にベトナム語を表記する手段であり、フランス領時代まで用いられたチュノム文と、主な書記言語であった漢文との関係について、またチュノムとベトナム語の音声に関して一般向けに発表することができたこれらの項目には、今回の研究成果も反映されており、社会貢献になったと考えている。

古ベトナム語やチュノム、また近代書記言語形成や歴史言語学一般についてのテキストの作成・出版や、関係する分野の海外の研究者の招聘、ワークショップの開催については、構想を練ったが感染症等の影響で思うように実施に向けて動くことができず、今後に見送ることとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 鷲澤 拓也	4. 巻 44
2. 論文標題 20世紀前半ベトナム語の su と bi の用法と文法化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 e162～e173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002005847	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鷲澤拓也	4. 巻 44
2. 論文標題 20世紀前半ベトナム語のsuとbiの用法と文法化（掲載決定）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鷲澤拓也	4. 巻 41
2. 論文標題 「ベトナム語の機能語cua, su, khong, biの文法化過程：16～19世紀の文献から」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東京大学言語学論集』	6. 最初と最後の頁 367-392
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00078597	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鷲澤拓也	4. 巻 32
2. 論文標題 「古ベトナム語における受身表現：16世紀漢文・ベトナム語対訳資料『新編傳奇漫録』を通して」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神田外語大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1．発表者名 鷲澤拓也
2．発表標題 ベトナム語の所有と名詞化の表現方法の変遷
3．学会等名 リンディフォーラム：日本におけるベトナム語研究の今
4．発表年 2021年

1．発表者名 Takuya Washizawa
2．発表標題 Process of Grammaticalization in Vietnamese and its Role in the Formation of the Written Language
3．学会等名 8th International Conference on Austroasiatic Linguistics (国際学会)
4．発表年 2019年

1．発表者名 Takuya Washizawa
2．発表標題 Formation of the Modern Written Languages Including Vietnamese, and Consideration to the Written Form of Taiwanese
3．学会等名 4th International Conference on Vietnamese and Taiwanese Studies (国際学会)
4．発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1．著者名 日本漢字学会	4．発行年 2023年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 648
3．書名 漢字文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------